

知事提出議案ほか 意見書などを可決

2月定例会の概要

2月20日～3月15日の24日間

会期中の主な動き

- 特別委員会の開催
 - 行政改革・基本計画等に関する特別委員会 …… 3/7
 - 予算特別委員会 …… 3/8、11、14
- 条例案検討会の開催
 - 中小企業振興に係る条例案検討会 …… 2/22
- 県選挙管理委員・補充員の選挙 …… 3/15

一般質問議員 15人

3月1日(金)	3月4日(月)	3月5日(火)	3月6日(水)	3月7日(木)
大沢広太郎 服部 一	岸本 健 中 拓哉 高田 由一	浦口 高典 片桐 章浩 鈴木 太雄	森 礼子 山本 茂博 中村 裕一	井出 益弘 藤本眞利子 雑賀 光夫 尾崎 要二

2月定例会の主な質問とこれに対する知事や関係当局の答弁は、下記のとおりです。(要約抜粋)

防災・復旧・復興

台風12号災害の復旧状況

問 紀伊半島大水害からの復旧について、平成24年度中に95%完了させるとのことであるが、現状はどうか。また、残りの5%は平成25年度で完了するのか。

答 現在、1100を超える被災箇所のうち74%が完了し、平成24年度末での95%の完了に向けて各地で工事が急ピッチで進められ、ほぼ達成できる見込みである。残る箇所のうち、大規模な被災箇所以外は平成25年度末までに、大規模な被災箇所についても今後2、3年をめどに完了させ、地域の方々が安心して暮らせるよう、復旧に全力で取り組んでいく。

七瀬川の改修

問 最近、大雨により浸水する七瀬川(和歌山市)の改修が進んできたが、10年以内の完成目標で努力してほしい。現在の改修状況と今後の見通しはどうか。

答 紀の川合流部の鴨居樋門が流下能力不足のため、平成26年度をめどに国が改築を進めている。それと並行し、県では河川の用地取得を進め、上下流のバランスを考慮しながら改修工事を実施している。鴨居樋門、鴨居川合流点は約8割が用地取得済みで、下流より護岸工事を進めている。国道24号までは平成29年度の完成を目指しており、残る区間についても、用地取得の協力を得て10年以内の完成できるように努める。

道路

高速道路の整備促進

問 近畿自動車道紀勢線の未事業化区間のすさみ、太地間、新宮、大泊間の新規事業化に向けて今後どう取り組むのか。また、有田、田辺間の4車線化についてはどうか。

答 紀伊半島一周道路の実現は、南海トラフの巨大地震など大規模災害に備えて不可欠かつ急務な、現政権が進める国土強靱化の根幹をなす事業であり、現在、未事業化区間を平成25年度に新規事業化されるよう強く求めている。有田、御坊間の4車線化については直ちに事業着手するよう、また事業化が見送られている御坊、南紀田辺間も早期に事業を復活するよう、引き続き国に対して強く働きかけていく。

和歌山南インターチェンジの設置

問 和歌山南インターチェンジをスマートインターチェンジとして県主体で整備すると発表された。国土交通省の高速道路利便増進事業を利用することであるが、計画の詳細を示されたい。

答 新規のスマートインターチェンジとして、国の制度に乗りおくれるおそれが出てきたので、整備に乗り出す意向を明らかにした。接続道路の構想が大事であるが、南港山東線を東伸して南インターと直接接続すれば円滑なアクセスが可能となり、さらに東側で和歌山橋本線に接続すれば紀の川市方面からの利用もスムーズになる。こうした整備を一体的に行うため県が事業主体となり、関係自治体と協力して、地元の理解を得ながら整備していく。

農業

中晩柑オリジナル品種の育成

問 本県では、ミカン以外の中晩柑についてオリジナル品種の育成や産地化の話は余り聞かない。愛媛県の「紅まどな」のように、県独自品種の開発が必要では。

答 果樹試験場では、食味、むきやすさ、食べやすさに注目して選抜した中晩柑の品種開発に取り組み、例えば清見とポンカンを交配した有望系統を絞り込んでいく。今後、生育特性や現地適応性を調査した上で数年後に品種登録し、県内果樹農業の振興につなげたい。

ウメ輪紋ウイルス対策

問 「和歌山県ウメ輪紋ウイルスの侵入及びまん延の防止に関する条例」により、早期発見されて木が処分された場合、その補償をどう考えているのか。

答 ウメ輪紋ウイルス感染木が処分された場合、植物防疫法第20条に基づき損失補償される。補償額は、国が定める単価表で算定した評価額について評価人の意見を聞いて基準価格を決め、処分される木の所有者との交渉で決定される。そうした不幸な事態とならないよう、県条例を活用して未然防止、侵入防止に努めていく。

少子高齢化対策

わかやま結婚支援の取組

問 最近、未婚や晩婚の人がふえている中、県ではわかやま結婚支援事業を展開するようであるが、どのような取組か。

答 これまで少子化対策として、紀州3人っこ施策等の子育て支援施策を中心に取組み、一定の成果を上げているが、未婚化、晩婚化が急速に進み、早急に対応すべき課題となっている。わかやま結婚支援事業は、この課題解決に向け、出会いの場を創出するものであり、県主催のイベントを県内各地で開催するとともに、「わかやま婚活応援隊」を新設し、県民総ぐるみで結婚サポート体制を推進していく。



将来の人口ピラミッドを見据えた取組

問 超少子高齢化社会の到来が避けがたいことから、市町村や県民と一体となって取り組んでいく必要があると思う。そのため、県民により意味での危機感を持ってもらえるような力強いメッセージを知事から発信してはどうか。

答 人口減少や少子高齢化を最小限に抑えるため、あらゆる政策を長期総合計画に盛り込み、具体的に毎年取組を進めている。人口減少をできるだけ食い止め、高齢者生活も楽しく暮らせるような政策を続けていくので、県民も希望を持ってそういった取組に参加してほしい。

